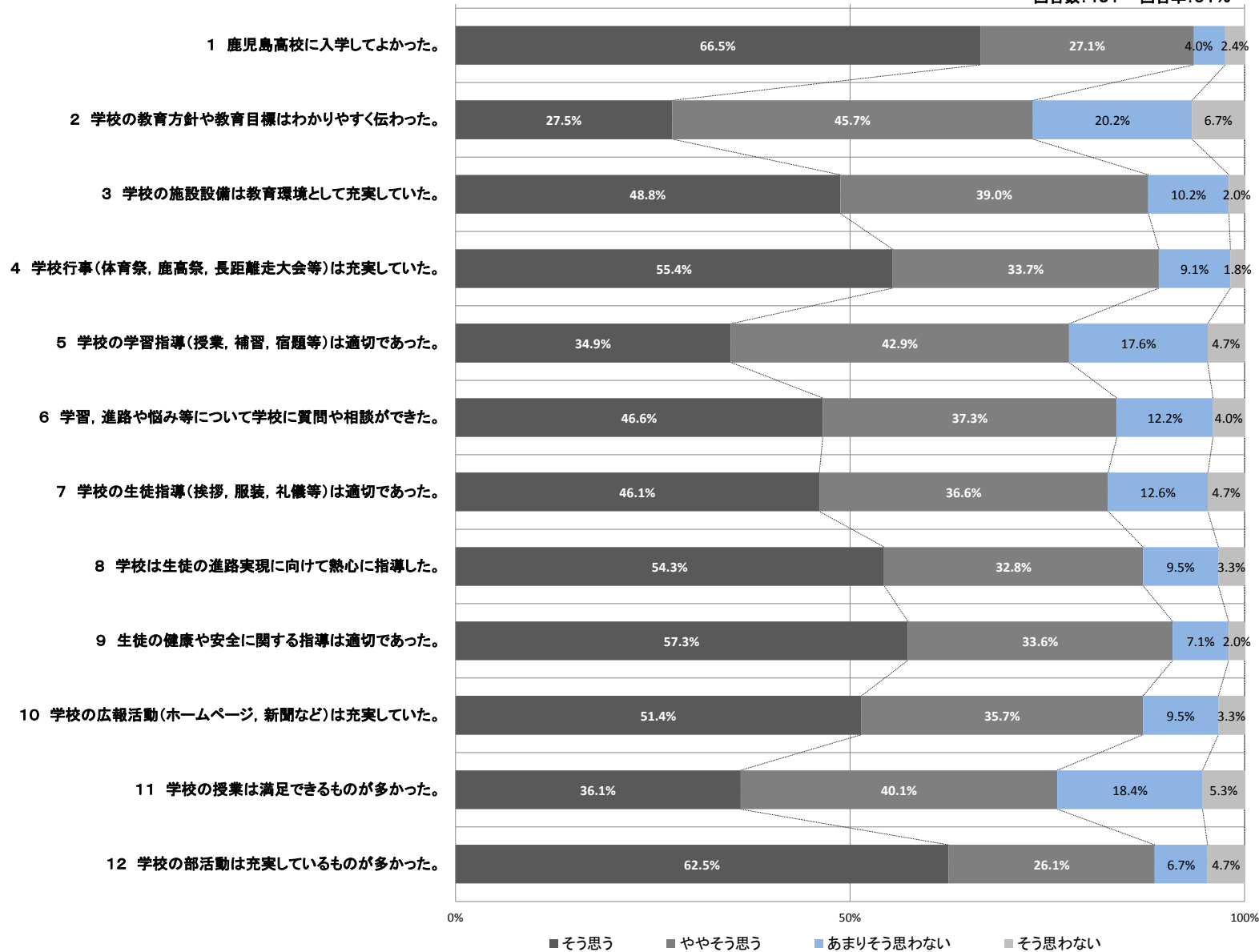


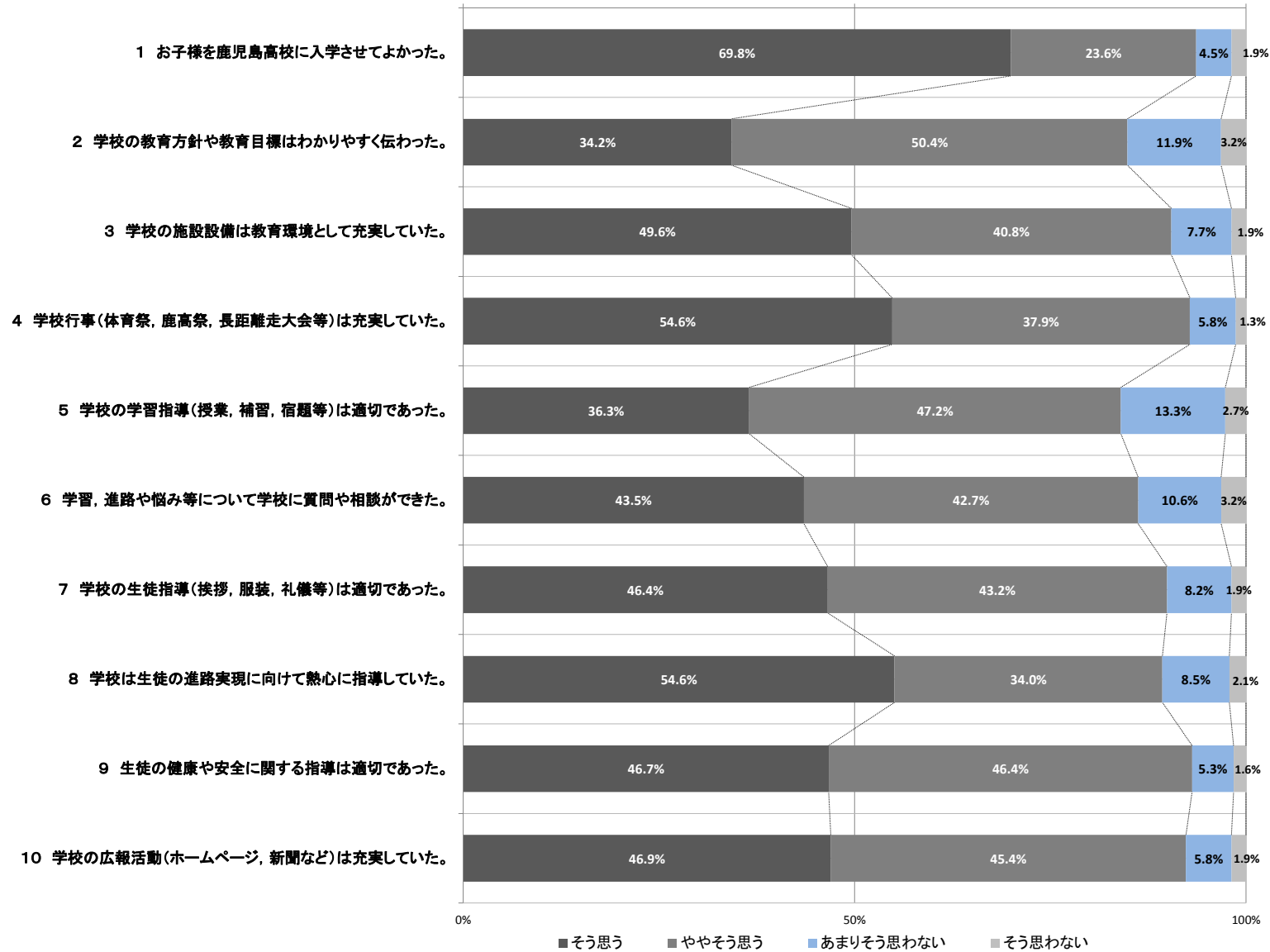
●平成30年度学校評価アンケート結果(生徒)

回答数:451 回答率:91%



●平成30年度学校評価アンケート結果(保護者)

回答数:377 回答率:76.2%



平成 30 年度 学校関係者評価

1 総合評価	
4.6	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の取り組みが見て取れる（努力を感じる）。 ○是非、引き続き取り組みを継続して欲しい。また、せつかくのアンケートなので今後活用できるような集計方法など工夫していただくと有り難い。 ○各領域で細かい目標と、具体的な取り組みは満足できるものである。
2 学校行事評価	
4.7	<ul style="list-style-type: none"> ○多岐にわたり工夫されていることが、見て取れます。 ○生徒を主体に、体育祭・文化祭などを盛り上げているのが良かった。 ○もっと生徒が全面に出ても良いと思う。
3 生徒指導評価	
4.5	<ul style="list-style-type: none"> ○平成生まれの生徒を指導される先生方の苦勞に感謝します。 ○4、5年前より生徒が素直になった。門札など挨拶も良い。 ○通学時のマナー違反を目にすることがある。
4 要支援生指導評価	
5.0	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人一人の思いを大切にしている様子がうかがえる。 ○先生方が一生懸命取り組んでいることが素晴らしい。 ○中途退学者の減少を期待します。
5 進学指導評価	
4.2	<ul style="list-style-type: none"> ○難関校へのチャレンジを期待。 ○エンパワーメントプログラムは先進的で良い。 ○大学入試共通テストへの移行に対応してください。 ○国公立への合格者をさらに増やして欲しい。
6 就職指導評価	
4.7	<ul style="list-style-type: none"> ○10年連続はたいしたものです。今後も継続を。 ○PTAとも協力してできないか検討してください。 ○今後も引きつづきよろしく願います。
7 保健安全指導評価	
4.2	<ul style="list-style-type: none"> ○学校、生徒の保健安全に心がけていると思う。 ○危機管理などへの意識の高さを感じます。
8 広報活動評価	
4.7	<ul style="list-style-type: none"> ○テレビのCMは鹿高らしくて良い。 ○よい方向で活動されていることを感じます。 ○たくさんの参加者がある体験入学が立派です。 ○中学校訪問、塾訪問、頭が下がります。今後も引きつづき取り組み、鹿高の良さをさらにアピールしてください。

4段階評価 A(5点)・・・取組が良い B(4点)・・・取組がおおむね良い C(3点)・・・取組が物足りない D(2点)・・・取組が悪い

平成30年度 学校自己評価

基本目標・基本的視点・基本的方向・主な具体的取組			最終評価
1 学校ブランド力の向上 ～生徒・保護者からの満足度が高く、地域社会への貢献度が高い学校を目指す～			
I	基本的視点	基本的方向	具体的取組
I	生徒・保護者からの満足度向上	3学科それぞれが、学科目標、進路目的に応じたバラエティ豊かな授業、個別指導など手厚いフォロー、学習環境整備などの体制を進化させ、生徒・保護者の満足を追求する。	(普通科) 多様な進路に対応可能な学校 設定科目の構築 ----- (英数科) ①難関大学・地元国立大学合格者増 ②奨学金制度の運用改善 ----- (情報ビジネス科) にこにこ市、インターンシップの 活性化 学校評価・学校生活アンケートの活用
II	地域社会への貢献	ボランティア活動などを通して、学校周辺の地域住民、町内会、企業などから信頼され、存在感のある学校を目指す。	ボランティア活動の推進 4.3 ・「未来探求」で企画したものを、様々なコンテストに応募し、受賞者を多数出すことができた。満足度も良好(アンケートの結果)。 ・基本的な学習習慣・生活習慣など具体的な評価の公平性も確立されてきた。学年会を通じ、共通認識を構築した(奨学金制度)。 ・インターンシップなどは、無事に5日間実習を行い、職業観と勤労観、進路意識も向上した。また、販売実習に多くの生徒が参加できた。 ・一部改善の必要もあるがアンケート自体は概ね良好。授業評価が低調なので、全職員で満足度を高めるための内容や方向性を検討する。
II	地域社会への貢献	ボランティア活動などを通して、学校周辺の地域住民、町内会、企業などから信頼され、存在感のある学校を目指す。	ボランティア活動の推進 4.2 ・掃除の時間には三弧会役員が中心となってペットボトルのキャップ回収作業はしっかりと実施されている。 ・奉仕活動は、実施できない学年・学科もあった。次年度は各学年・学科で最低1回以上のボランティア活動が実施できるように声かけを行いたい。 ・鹿児島マラソンは約120名を超える生徒が補助員として参加した。部活動・同好会以外の生徒参加も多かった。 ・おはら祭は踊り連70名のうち、生徒約40名、教員10名の参加と少ない気がした。関東・関西の各同窓会の方々も遠路参加しているので、校内の参加者を増やしたい。
2 先進的な教育課程の編成 ～語学力・コミュニケーション能力の強化によりグローバル教育の充実を図る～			
I	語学力・コミュニケーション能力の強化	ネイティブの教員による「英語」「中国語会話」「韓国語会話」の授業、鹿児島国際大学の留学生との国際交流などを通して、語学力・コミュニケーション能力の育成を図る。	カリキュラム編成 4 サーフェスを使って生徒の調べ活動、タイピングの育成につながった。GTECについては、新形式の入試で課される生徒のスピーキング能力の測定を効果的に行うことができた。次年度も実施するため、伸長度を見極める材料にしたい。
II	グローバル教育の充実	オールイングリッシュによるディスカッションやプレゼンテーションを通して英語力を磨き、国際交流への派遣、海外ボランティア体験、海外団体との学校交流を実施し、チャレンジ精神を培う。	語学研修制度の構築 4 事前指導およびプログラムは予定通り実施ができた。実施後の授業に対する取り組みや模試関係(GTECなど)にも相応の効果が表れていた。

平成30年度 学校自己評価

基本目標・基本的視点・基本的方向・主な具体的取組			最終評価
3 未来を築く進路保証 ～新しい教育制度や大学入試改革, 資格取得に対応できる環境を整え, 生徒たちの進路を実現する～			
基本的視点	基本的方向	具体的取組	
I 次期学習指導要領や大学入試改革への対応	生徒たちに育成すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために指導方法の見直し・改善に努める。	① 教育改革に対応するカリキュラムの原案作り ----- ② 大学入試改革へ向けての思考力・表現力作りのための学習指導 ----- ③ 電子黒板、タブレットなどICT機器を活用したAL型授業の展開 ----- ④ PC、タブレットなどICT機器を活用した自学自習計画	
II 進路実現に使用できる各種資格の獲得	大学進学や就職の際に大きな武器となる語学検定をはじめとする各種検定, 商業系の上級資格などの資格取得への対策を強化する。	英検・商業科目特別講座などの実施 実用英語技能検定特別指導等の実施 ----- 全国商業高等学校協会1級3種目以上取得講座の実施 ----- 日本商工会議所検定資格取得対策講座の実施	
4 三弧会・部活動のさらなる活性化 ～三弧会組織の改革とともに, 全国大会で活躍できる部活動を育成する～			
I 三弧会組織の改革	平成27年度に実施した保護本部との統合によりスリム化した三弧会が, 自主的な活動の幅を広げられるよう, さらなる組織改革を行う。	体育祭, 鹿高祭, クラスマッチなどの生徒主体の企画・運営	
II 全国大会で活躍できる部活動の育成	強化指定部を中心として, 部活動奨学生制度および部活動, 体育・文化活動推薦入試による勧誘活動により強化を図る。	強化指定部制度の充実	
		3.8	・具体的な原案の検討には入っているが, カリキュラム委員会への提出はできなかった。 ・個別指導が順調に実施され, 国公立推薦AO入試で11名, 国公立大学合格50名以上, 難関私立大学合格者60名以上を達成できた。 ・英語・数学・理科のほか, 課外活動でも活発に利用されている。特に調べ活動などの利用頻度が高く, 生徒にも好評を得ている。 ・非定期ではあるが, 宿題の配信を行い, 活用率向上を仕掛けた。ポートフォリオ作成指導については, 英数科で作成を開始した。
		4	・準1級取得者2名, 2級取得者増加。 ・GTEC受験開始。グレード1～7のうち, グレード6を取得。全体では高校中級レベル。 ・GTECは来年度より進路指導室を中心にして指導を行う(英語科による実施から)。
		5	・体育祭の紅白対抗戦は定着してきた。今年は雨天プログラムでの開催となったが, 生徒主体の運営ができた。応援団も一生懸命盛り上げていた。 ・鹿高祭は内容も精選され, 生徒主体の運営もできた。昨年度のような2日間開催はかなわなかったが, 充実した1日を過ごした。 ・年2回のクラスマッチは種目も予定通り実施できた。生徒が中心となって立案・運営を行っていた。
		4	陸上部, ソフトテニス部, フェンシング部, 水泳部の4つの運動部と, 音楽部が全国大会に出場した。また, ラグビー部, バドミントン部, サッカー部, 弓道部, 放送部, 自然科学部が九州大会に出場するなど活躍している。

平成30年度 学校自己評価

基本目標・基本的視点・基本的方向・主な具体的取組				最終評価	
5 職員の資質向上 ～研修制度を充実させ職員の資質向上を図る～					
基本的視点		基本的方向		具体的取組	
I	年次別研修の充実	自らのキャリアステージに応じた, 学習指導力, 生徒指導力, 学級経営力など職員に求められる資質の向上を図る。	初任者・経験者研修充実	4	1学期に10回,2学期に12回,3学期に7回の研究授業を実施した。初任者研は,一般研修10時間,教科指導20時間,研究授業3時間の実施であった。一方で,校外研修の参加者は少なかった。
II	テーマ別研修の充実	教育制度改革, ICT など時代の変化に応じた新たな課題に対応する知識や能力の修得を図る。	アクティブラーニング型の授業研修実施	3	アクティブラーニング型の研究授業も多く教科を超えた授業研究ができた。